

東京オリンピック・パラリンピックを契機とした教育の推進

児童生徒の体力向上

方針4 健康で豊かな生活を営むことができる「やまなしスポーツ」の創出

○オリンピック・パラリンピック教育の目的

- 1 スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上
- 2 障害者を含めた多くの国民の、幼少期から高齢期までの生産を通じたスポーツへの主体的な参画(「する」、「見る」、「支える」、「調べる」、「創る」)の定着・拡大
- 3 児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成
「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて(最終報告)」

2016.7.21オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議

○本県における施策目標

国際的に活躍できるグローバル人材の育成や、心のバリアフリーを進めるため、英語教育の充実や海外留学の促進を図り、オリンピック・パラリンピックを題材とした教育を実施

「東京オリンピック・パラリンピックに向けた山梨県アクション2016-2020」

2016.4.26 山梨県東京オリンピック・パラリンピック推進本部
(教育・文化振興部会【部会長所属:教・総務課】)

○本県における主な取り組み（方針4に関わる取り組み）

1 学校における教育の推進

学習指導要領に基づく保健体育授業の展開

(例) 中学校3年 保健体育 体育理論

文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。

- ・ 現在生活におけるスポーツの文化的意義
- ・ 国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割
- ・ 人々を結び付けるスポーツの文化的な働き

2 オリンピックムーブメントとの連携

(1) オリンピアン・パラリンピアンを活用した県民のスポーツ参加促進

・オリンピアン・パラリンピアンによる講演会を開催し、オリンピック・パラリンピックへの理解を深め、市民スポーツの広がりにつなげる。

(2) 事前合宿誘致の促進

・内閣官房東京オリパラ事務局が参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として登録し、関係省庁が各種財政支援等を行う仕組みを受けて、事前合宿誘致の取り組みを促進し、地域におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントにつなげる。

(本県のホストタウン登録団体)

富士吉田市・県、山梨市、笛吹市、甲州市、忍野村、山中湖村、富士河口湖町・鳴沢村

○子どものスポーツ機会の充実（子どもの体力向上推進事業）

現状と課題

本県の子どもの体力は全国平均よりも低く、特に小学校において、全国順位が低下傾向

学校・家庭・地域が一体となって、子ども達に運動の機会を提供し、子どもの体力向上を図る

▶地域で取り組む学校元気アップ事業

・運動の習慣化を図るため、県下小学校を対象として推進校を指定し、学校や保護者、地域が一体となって体力の向上に取り組む

▶健康・体力づくり実践事業

・山梨県新体力テスト健康実態調査・・・県下の小学校、中学校、高等学校の全児童生徒を対象に実施、課題と問題点を分析
・「わいわいステージin山梨の開催」・・・本県ゆかりのトップアスリートとの運動体験など、子ども参加型のイベントを小瀬スポーツ公園で開催

▶「健康・体力づくり一校一実践運動」の実施

・一日60分の運動時間の確保を目標に据え、学校ごとに課題克服のための取り組みを実施

▶体力向上対策委員会の開催

・学識経験者等からなる委員会を設置し、上記の事業の効果を検証

平成28年度全国体力・運動能力調査において、
体力合計点で中学の男女が全国平均を上回る!

体力合計点	H27年度	H28年度	H27年度	H28年度
小学男子	52.51(53.80)	52.71(53.92)	44位	45位
小学女子	54.33(55.18)	54.52(55.54)	39位	39位
中学男子	41.76(41.89)	42.54(42.13)	27位	19位
中学女子	48.14(49.08)	50.08(49.56)	36位	17位
1週間の総運動時間(分)	H27年度		H28年度	
小学男子	584.1(597.5)	615.7(602.9)		
小学女子	350.7(351.7)	377.6(370.3)		
中学男子	873.4(914.0)	917.0(964.3)		
中学女子	617.5(654.0)	690.7(685.2)		